

9月1日病院長挨拶・懇談報告 教職員が働きやすく、働きがいのある職場を目指して！！

2025年度執行部の発足に伴い、6月20日に申し入れた病院長挨拶・懇談を9月1日に行ないました。組合は、病院の経営が大変な状況であることは重々承知していますが、職員のモチベーションアップや人材流失阻止には職場環境や待遇の改善が必要であるとの考えを基に、病院長と意見交換を行ないました。このニュースでは、主な発言内容を報告します。

2025年1月31日病院長交渉で検討を約束した事項

① 院内保育所・病児保育室について

病児保育室利用時、熊大病院内で受診可能とし、「病児保育連絡票」作成料を補助してほしい。

病院長 院内での受診は、小児科医師の時間外勤務となり負担が大きい。利用者もかかりつけ医で受診の方が安心ではないか。しかし一方で、2つの国立大学病院で先行事例があったため、小児科の負担や両者のニーズ、メリット、デメリット、費用負担の課題等を踏まえ、引き続き導入の可否も含め検討する。

・「病児保育支援事業」の支援制度が充実している。

熊本大学「病児保育支援事業」とは？

育児中の教職員が、子どもが病気の場合でも勤務することができるよう支援することを目的として2009年度から実施しています。

市町村で実施している病児保育施設、または熊本大学病院病児保育室(Mimi)の1日の利用料のうち2,000円を大学が負担します。ただし、期間内に登録が必要で2025年度の登録期間は終了しています。支援登録期間終了後でも、熊本大学病院病児保育室(Mimi)の利用は可能です。(利用料2,000円/日)ダイバーシティ推進室や病院総務課から教職員に一斉メールで周知しています。

② 中央放射線部看護師に対する危険手当の創設について

被ばく、抗がん剤ばく露、感染の危険性があるが、同様の危険がある中放技師や手術部看護師に支給されている基本給の調整額は対象外で、放射線取扱手当は対象だが支給条件があるため不公平だ。

旧6医大と九州圏内国立大学にアンケートを取ったが、回答のあった9大学のうち放射線取扱手当を支給している大学は5大学、基本給の調整額を支給している大学はなかった。厳しい病院の経営状況からも、新たな手当を支給することは大変難しい。

被ばくやばく露はセンシティブな問題だ。現場の声を聞いて引き続き検討していただきたい。

放射線取扱手当・・・1ヶ月の放射線被ばく実効線量が100マイクロシーベルト以上になる放射線取扱業務に従事した場合に支給される。 手当額7,000円/月

基本給の調整額・・・職務内容、勤務条件等の特殊性に基づき、基本給を調整するために支給される手当で支給額は勤務場所や基本給の級によりそれぞれ異なる。(支給対象：精神科病棟・ユニット系病棟・中央手術部の看護師や医師など、感染症の危険のある病原体を扱う病理細菌技術者、診療放射線技師、外来患者や入院患者に直接接する事務職員など)

組合ニュース

No. 6

2025. 9. 24

熊本大学教職員組合医学部支部

内線 5858 メール m-kumiai@kumamoto-u.ac.jp



③ 本荘地区駐車場について

産休・育休復帰者専用入構制度の見直しについて、4月の中地区ゲート設置後に検討するとしていた。ゲート設置により違反駐車は減少は見られたが、**ピーク時の駐車場稼働率は127%でかなり逼迫した状況だ。**ただ、2025年度の本制度の利用者実績が現時点で延べ6名に留まっており、このままでは利用者が大幅に増える見込みがないため、**利用期間を6ヶ月に延長(現行3ヶ月)することを検討し、駐車場整理委員会に諮りたい。**

本荘地区の収支報告をもう少し分かりやすく利用者が納得できるよう報告してほしい。黒髪・大江地区では写真や地図を示して工事箇所などを報告しているので参考にしてほしい。

病院の経営状況について

人件費や医療材料高騰による支出増加で2025年度も赤字を見込んでいる。**経営改善に重要な病床稼働率の増加に重点を置いた取り組みを病院職員一丸となって進めている。併せて手術件数の増加などによる増収策に引き続き取り組み、さらに医薬品、診療材料などの価格交渉をはじめ、医療材料の見直しや省エネルギー推進など各種経費節減に取り組んでいる。**

病院のダウンサイジングなどは検討されているのか？

いろいろな意見があるため、病床再編ワーキンググループで方向性を検討している。

ハラスメント対策について

・2024年度院内アンケートの意見の中に、管理者向けの研修実施を希望する声が多々あったため、講師をお招きし対面で実施する「熊本大学病院ハラスメント研修会」を実施した。

・**ペイシェントハラスメント(ペイハラ)については院内の指針をつくっている最中だ。**

他科の緊急入院があった際の医師の対応について

投薬指示などがきちんとされず、電話を掛けても応答がないため困っている。

病床運用については「熊本大学病院における病床運用に関する申合せ」に基づき病棟医長と担当の看護師長間で調整している。ただ、看護師さんが困っているとの状況も把握しているため、病院長として、また、医師側の立場からも各診療科に指導を行なう。

看護職がきつい思いをしているのは看護部も十分把握している。**自分のところは関係ないと思わず、全診療科が当事者意識を持ち、認識するところからスタートするのではないかな。**私たちも一緒にやっていきたい。